

2022年度「BBCワールドニュース」番組審議委員会 議事録

【開催日時】 2023年1月

【開催場所】 書面開催

【審議委員】 (敬称略・五十音順)

1. Marsha Krakower マーシャ・クラッカー (聖心女子大学 英語文化コミュニケーション学科名誉教授)
2. しばはら さなえ 柴原 早苗 (放送通訳者・大学講師)
3. とよだ おきと 豊田 沖人 (外国文学翻訳士・元 NHK 海外放送 英語アナウンサー)
4. ふじきま いちろう 藤崎 一郎 (一般社団法人日米協会 会長)
5. ふじむら あつお 藤村 厚夫 (スマートニュース株式会社 フェロー)
6. みやかわ みちこ 宮川 倫子 (倫総合法律事務所 代表弁護士)
7. もりた あきら 森田 彰 (早稲田大学 商学部教授)
8. もりよし なおこ 森吉 直子 (慶應義塾大学 商学部教授)

(不参加委員)

1. たかしま はつひさ 高島 肇久 (元株式会社海外通信・放送・郵便事業支援機構取締役会長)

1. BBC からのご報告

BBC が 2022 年におこった主な報道内容を共有しました。2 月にロシアがウクライナへ侵攻を開始した際は、首都キーウや国境付近に最大 20 以上のチームを配置し、刻々と変化する状況を現場から報じたほか、9 月の英女王エリザベス 2 世の死去のニュースは、BBC の看板キャスターであるヒュー・エドワースによって速報で世界に伝えられ、国葬は BBC が生中継を担当しました。今年 10 月に BBC は創立 100 周年を迎え、2022 年には英国を除き、週間当たり世界 4.92 億人が BBC のコンテンツに触れるまでに成長したことをご報告いたしました。また、公共放送のあり方をめぐる今後の改革案の中で、英国内 BBC ニュースと国際版 BBC ワールドニュースのチャンネルを統合し、早ければ今年 4 月より、チャンネル名を「BBC ニュース」としてリニューアルする企画を進行していることもご報告いたしました。

2. 審議内容

下記審議対象番組についてのご意見、ご感想

◆ドキュメンタリー

「テック・エクスプローラー：日本 パート2」 TechXplore: Japan Part Two

2022年10月29日放送（日本語字幕付き放送）

3. 議事概要

1) 「テック・エクスプローラー：日本 パート2」について

<番組内容>

BBC ジャーナリストのポール・カーターが、世界各地を旅しながら、最新テクノロジーを取材する番組シリーズ。2022年1月に放送された日本特集の続編。主に洋上風力発電所で活用される水中ドローンや、廃棄されていたホヤ殻を使った発電など、持続可能性の向上に向けた日本独自の研究を探る。

<ご意見>

■ 番組内容について

- ・日本においてさえ、さほど知られていないユニークな持続可能な技術、事業実験の動向が、BBC によって紹介されていることには驚きがある。取り扱われる技術や事業自体は、この種の主題としては必ずしも目新しい話題ではないが、そのそれぞれが一ひねりされている。言い換えれば、事業の持続可能性が高められているかどうかを、番組として取り上げる上での基準にしている点だ。
- ・日本では、風力発電に関連する最先端の技術については、あまり取り上げられない分野だと思うので、興味深く拝見した。
- ・洋上発電というイギリス（ヨーロッパ）が先進的に取り組む分野では、イギリスでの状況と日本のそれとの比較を行うような場面が欲しくもあった。
- ・スパイバーの製品は、蜘蛛の糸をつくる遺伝子が組み込まれた微生物が作り出すタンパク質を溶かして糸をつくるというアイデアのようだが、その過程を企業秘密に立ち入らない範囲で、もう少し説明するとさらに良かったと思う。また企業である以上、PL や費用対効果の観点の説明ももっとされるべきだった。
- ・日本は、SDG s に関して世界に遅れをとっているとはばかり思っていたので、日本が世界に先駆けて環境や人にやさしい先端技術を生み出しているというレポートには目からうろこだった。このように、日本独自の自然と調和したハイテクの取り組みを高く評価されると、日本人の視聴者にとって自信に繋がるようにも思う。

■ 出演者について

- ・専門的な内容であったにもかかわらず、ポール・カーターの個人的な関心や茶目っ気のある表情と軽快な話（蜘蛛を恐れたり、ほやを試食されている時の映像等）のお蔭で、彼のレポートに興味を持って視聴出来た。
- ・レポートのポール・カーターは、障がい者に全く関係のない今回のテーマでも、彼自身がハンディキャップを持っているということを全く感じさせないほど自然体でレポートされていたのは特筆すべきである。
- ・テレビは社会の「storyteller」と社会学者のジョージ・ガブナー氏は言っていたが、ポール・カーターという「storyteller」による「storytelling」が、いかに現代社会のダイバーシティを反映しているのかの証となって良かった。

■ 日本語字幕について

- ・日本語字幕はちょうどよい分量（長さ）で、字幕を読むのに時間を取られて、画面に十分に目を向けられないということもなかったかと思う。ナレーションがとてもプロフェッショナルなので、日本語同時通訳にありがちな、せわしなさはなかった。
- ・字幕が出る位置が気になる。風力発電の話題の際、小川氏の発言の和訳が左側縦に出た後、次のカーターの発言の和訳は右側縦に、そしてそれ以降は画面下に表示された。表示の位置が統一されていないので、わかりにくいと感じた。

■ その他

- ・福島での原発事故に全く触れていない点に違和感を持った。詳しく説明する必要はないが、日本が Green Tech に力を注ぐ背景について一言説明があっても良かったかも知れない。
- ・BBC が開局時から使命とする『情報、教育、娯楽を提供する』という伝統と BBC の総合力を活かした、分かり易く、親しみやすい、バランスの良い報道（レポート）番組である。また番組の準備（リサーチ）、現地取材、編集に至るまで、番組制作が的確に、手堅くなされている。さらに、レポートの自然な反応を活かした、視聴者が番組を身近に感じられる番組作りも、伝統を背景にした BBC らしさ、と言えよう。
- ・「TechXplore」なので、最先端の技術革新の紹介（ある意味、夢物語）にとどまっているのかもしれないが、

紹介された技術にはそれぞれ、その実現性や利用した場合の課題があるはずで（少し触れられていたが）、今後そうした課題をどのように解決するのかをもう少し掘り下げた視点も入るといいと思った。続編に期待する。

・30分という短さで非常に中身の濃い番組。日本のドキュメンタリーは冗長になりがちだが、BBCはコンパクトで画面の切り替えも頻繁にあり、観ていて飽きない。

2) その他のBBCワールドニュース・チャンネルに関するご意見

・BBCも他のニュースチャンネルも、放送中に番組以外のニュースや経済情報を下の字幕で流しているが、そのフォントのサイズやeffectの使い方が異なるように思う。他のチャンネルの方はかなり「うるさく」感じるが、BBCの場合は番組本体の内容に集中できると感じる。

・ロシア政府が新たに導入した厳格なメディア関連法を慎重に検討しながらも、「社会を正しく反映させる責任」を果たすべくロシアでの報道活動を再開したBBCの覚悟と信念を目の当たりにして、リスクに面したときにこそ真価が問われるのだとあらためて実感し、感銘を受けた。

以上